

# マスターズスポーツイベント参加者の大会満足度と幸福感 社会化パターンに着目して

岩本綾乃(広島経済大学経営学部 4年)  
岡安功(広島経済大学)

キーワード：「マスターズスポーツ」「大会満足度」「協調的幸福感」「社会化」

## 【1】目的

近年、高齢化が進んでおり、令和5年度の高齢社会白書（内閣府，2023）によれば、日本の総人口は1億2,495万人（令和4年10月1日現在）となり、65歳以上人口は3,624万人（総人口における割合：29.0%）となった。

スポーツへの参加は、健康寿命の延伸や医療費抑制だけでなく、生きがいや幸福感につながる。また一方でイベントへの参加は、人々に強烈な心理的効果を与えるものである（堺屋，2008）。そのため、マスターズスポーツイベントは、今後の高齢社会の生涯スポーツ振興として、重要な役割を担う事になると考える。

マスターズスポーツに関する研究では、久保ら(1999)がどのような人々が中高齢者としてどのようにスポーツと関わっているかを明らかにすることは、健康な高齢者の増加の一助になると指摘した。この見解から20年以上経っているが、高齢社会を迎えたわが国においてさらにその重要性が増していると考えられる。

本研究は、マスターズスポーツイベントの参加者大会満足度と幸福感を明らかにすることを目的にした。本研究では、社会化パターンに着目し、マスターズスポーツイベントにおける大会満足度と協調的幸福感を検証した。

## 【2】方法

本研究は、2023年6月10日（土）11日（日）に広島県広島市で行われた第13回もみじCUP2023及び、2023年6月11日（日）に広島県尾道市で行われた第41回広島マスターズ陸上選手権大会において調査を実施した。

調査項目は、スポーツへの社会化の先行研究（山口ら，1998；久保ら，1999；住田ら，2017；上代ら，2016）を参考に設定した。また、個人的属性（年齢、職業、最終学歴など）、大会満足度（Funk, et al. 2011; Sato et al. 2017）、協調的幸福感（Hitokoto & Uchida, 2015）を設定した。

分析は、久保ら(1999)を参考に、対象者の過去から現在に至るまでの運動継続状況から「早期社会化群」、「再社会化群」、「後期社会化群」の3つに分類した。そして、大会満足度や協調的幸福感を社会化パターン別に比較するために一元配置分散分析を行った。また、大会満足度が協調的幸福感に及ぼす影響を明らかにするために、単回帰分析を行った。

### 【3】結果

本研究では、水泳が 352 人、陸上競技が 115 人から有効な回答を得ることができた。性別は、男性が 272 人 (58.2%)、女性が 168 人 (36.0%) であった。また、平均年齢は 53.6 歳 (標準偏差: 15.4) であった。

社会化のパターンで分類したところ、再社会化群 184 人、再社会化群 240 人、後期社会化群 43 人となった。

大会満足度と協調的幸福感の各項目において、社会化パターン間で有意な差は認められなかった。また、大会満足度が協調的幸福感に及ぼす影響については、早期社会化群では大会満足度は協調的幸福感に有意な正の影響を及ぼしていた ( $\beta=0.22, p<0.001, R^2=0.09$ )。また、再社会化群においても、大会満足度は協調的幸福感に有意な正の影響を及ぼしていた ( $\beta=0.25, p<0.001, R^2=0.13$ )。しかし、後期社会化群においては、大会満足度は協調的幸福感に有意な影響を及ぼしていなかった ( $\beta=0.10, p=0.38, R^2=-0.01$ )。

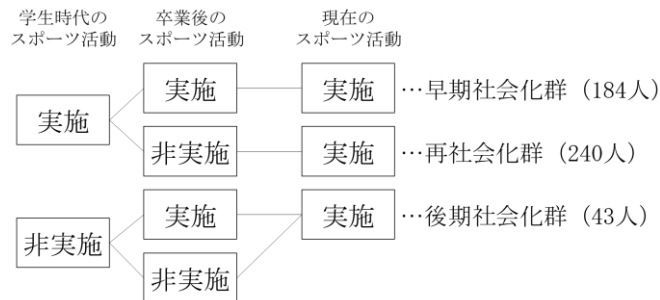


図.スポーツへの社会化パターンと結果 (久保ら,1999 を引用し作成)

### 【4】考察

本研究の結果を久保ら(1999)と比較すると、再社会化群が早期社会化群より多い点は同じであったが、早期社会化群が後期社会化群より多い点は異なっていた。これは、先行研究が女性のみに着目していたが、本研究では性別を限定せずに調査したことが1つの要因として考えられる。また早期社会化群が後期社会化群より多い結果になった点は、先行研究は調査対象者がスイミングクラブに所属している人であったが、本研究はマスターズスポーツイベントの参加者に着目した点も考えられる。

### 【5】結論

本研究の結果から、大会満足度や協調的幸福感は、社会化パターンによって有意な差は認められなかった。つまり、社会化パターンに関係なく大会に満足し、協調的幸福感を感じていることが明らかになった。一方で、早期社会化群と再社会化群は、大会満足度が協調的幸福感に有意な正の影響を与えていた。これは、学生時代にスポーツ経験がある人は、そうでない人に比べて、異なる意識を持っていることが示唆される。そのため、大会内でクリニック等を開催し、競技レベルの向上をつながれば幸福感につながる可能性がある。そして、満足度が高く、継続的な大会参加につながるのではないかと考える。